

- 問1 1950年から2010年までの日本の発電電力量の変化について、発電方式ごとの特徴を述べた文として正しいものはどれですか。 (2024年 富山県公立入試 類似)
1. 1980年代には、原子力発電による発電電力量が水力発電を上回り、火力発電に次ぐ重要な電源となった。

2. 1950年代から一貫して水力発電が日本の総発電電力量の8割以上を占め続けている。

3. 高度経済成長期を通じて、豊富な森林資源を利用したバイオマス発電が火力発電に代わって主流となった。

4. 2000年代に入ると、核融合発電の実用化により、火力発電の割合はほぼゼロになった。
- 問2 日本の諸地域の農業に関する説明として、北海道と三重県の統計的な共通点や特徴を正しく述べているものはどれですか。 (2017年 愛知県公立入試 類似)
1. 北海道では米の産出額が農業の柱となっており、畜産の産出額の約4倍に達している。

2. 北海道と三重県はともに、稲作が農業産出額の5割以上を占める米どころとして知られている。

3. 北海道と三重県はともに、乳や肉を生産する畜産の割合が農業産出額全体の約30%を占めている。

4. 三重県では果実の産出額が最も多く、農業産出額全体の約3割を占める畜産を上回っている。
- 問3 情報通信業の売上高が大きな値を示す地域と、鉄道による旅客輸送量が多い地域に共通する地理的な背景として、最も適切な説明はどれですか。 (2023年 山口県公立入試 類似)
1. 広大な工業用地と港湾が整備されており、原材料を輸入に頼る重化学工業が発達している。

2. 人口や企業が高度に集中しており、サービス業を中心とした経済活動が極めて活発である。

3. 豊かな水資源と急峻な地形を利用して発電施設が多く、エネルギー供給を担っている。

4. 広大な平野部を活用して大規模な機械化農業が行われ、食料供給の拠点となっている。
- 問4 日本のエネルギー供給における、2000年から2020年にかけての大きな変化とその背景を説明したものととして、最も適切なものはどれですか。 (2024年 福島県公立入試 類似)
1. 大規模な震災の影響で安全性が再検討された結果、原子力の割合が減少し、代わりに温室効果ガスの排出が比較的小さい天然ガスや再生可能エネルギーの割合が増加した。

2. 少子高齢化による電力消費量の劇的な減少により、2020年には新たなエネルギー源の開発が不要となり、1970年代と全く同じ供給構成に戻った。

3. 地球温暖化対策として「脱炭素」を推進するため、輸入に頼る天然ガスの利用を一切禁止し、国内で自給可能な石炭による火力発電へ一本化した。

4. 北極海航路の開拓によって原油の輸入コストが劇的に下がったため、一度減少していた石油の割合が、1970年代の約70%を上回る水準まで再び上昇した。
- 問5 日本の都道府県別の統計において、再生可能エネルギーの中でも特に地熱発電の発電量が最も多く、火山地帯の熱エネルギーを積極的に活用している都道府県はどこですか。 (2019年 秋田県公立入試 類似)
1. 大分県

2. 北海道

3. 鹿児島県

4. 秋田県
- 問6 東北地方や九州地方において、宮城県や福岡県は地方の産業や交通の拠点となる「地方中枢都市」としての役割を担っています。これらの県が周辺の県と比較して持っている統計上の特徴として、最も適切な説明はどれですか。 (2024年 福岡県公立入試 類似)
1. 人口密度が低く、広大な森林面積を維持している

2. 空港の利用客数のみが突出しており、陸上の交通網は未発達である

3. 農業に従事する世帯数が周辺県に比べて極めて多い

4. 人口が300万人を超え、事業所数も15万以上と突出して多い
- 問7 1980年から2013年にかけて、日本の輸入総額に占める品目別割合は大きく変化しました。特に、かつて輸入の主軸であった原油の割合が低下し、代わって機械類の割合が急増した背景にある、日本の産業や社会の動きを説明したものととして最も適切なものはどれですか。 (2016年 三重県公立入試 類似)
1. 日本企業が海外に生産拠点を移したことで、現地で製造された製品を日本が輸入する「逆輸入」が増えたため

2. 高度経済成長期を経て日本が軽工業中心の社会に回帰し、原料よりも付加価値の高い機械を求めるようになったため

3. 国際的な貿易摩擦を避けるために、政府が資源の輸入量を法的に制限し、機械製品の輸入を義務付けたため

4. 日本国内で原油の採掘が盛んになり、エネルギーの自給率が大幅に向上したことで資源の輸入が不要になったため
- 問8 1950年代には大きな割合を占めていた船や鉄道による国内貨物輸送が、1990年代にかけて大幅に減少した背景には、社会の自動車化が進んだことが挙げられます。このように、自動車社会に普及し、物流や生活様式に大きな変化をもたらした現象を何というか。 (2018年 岐阜県公立入試 類似)
1. グローバル化

2. 過疎化

3. 情報化

4. モータリゼーション
- 問9 過疎化が進行している地域において、住民の生活に及ぼす直接的な影響や、地域社会が抱える課題として最も適切な説明はどれですか。 (2018年 広島県公立入試 類似)
1. 農林水産業の担い手が不足して産業が衰え、伝統行事の継承や災害時の助け合いが困難になる。

2. 住宅不足が深刻化し、地価が急激に上昇することで、若者が住居を確保できなくなる。

3. 都心部への通勤を目的とした住民が郊外へ流出することで、夜間の人口が昼間の人口を上回ようになる。

4. 公共交通機関の利用者が増えず混雑が激しくなり、通勤や通学に支障をきたすようになる。
- 問10 日本の主な工業地帯・地域における製造品出荷額の内訳をまとめた統計において、出荷額の約半分を「輸送用機械」が占めている、日本で最も製造品出荷額が大きい工業地帯を何といいますか。 (2018年 群馬県公立入試 類似)
1. 北九州工業地帯

2. 中京工業地帯

3. 阪神工業地帯

4. 京浜工業地帯
- 問11 北海道苫小牧市にあるウトナイ湖などの豊かな自然環境や、地域に根付いた文化を保護しながら、それらを観光資源として活用し、地域の活性化を図る取り組みが行われています。このように、地域の資源を守ることと、観光振興による地域発展の両立を目指す仕組みを何と呼びますか。 (2023年 長野県公立入試 類似)
1. インバウンド観光

2. バリアフリー観光

3. グリーンツーリズム

4. エコツーリズム
- 問12 日本の水産業において、ブリやマダイなどの魚介類を、出荷できる大きさになるまで生け簀（いけす）などで人工的に育ててから収穫する漁業の形態を何といいますか。 (2026年 岐阜県公立入試 類似)
1. 沖合漁業

2. 栽培漁業

3. 遠洋漁業

4. 養殖業